Asia Indicators

発表日:2020 年 12 月 11 日(金)

台湾の輸出入は堅調も、物価は弱含む展開(Asia Weekly(12/7～12/11))

～輸出の堅調さが輸入を押し上げる好循環が続く展開は変わらず～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主席エコノミスト 西濵 徹(TEL:03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	ｺﾝｾﾝｻｽ	前回
12/7(月)	(台湾)11 月輸出(前年比)	＋12.0%	＋8.4%	＋11.2%
	11 月輸入(前年比)	＋10.0%	＋0.3%	▲1.0%
	(中国)11 月輸出(前年比)	＋21.1%	＋12.0%	＋11.4%
	11 月輸入(前年比)	＋4.5%	＋6.1%	＋4.7%
12/8(火)	(台湾)11 月消費者物価(前年比)	＋0.1%	▲0.1%	▲0.3%
12/9(水)	(中国)11 月消費者物価(前年比)	▲0.5%	±0.0%	＋0.5%
	11 月生産者物価(前年比)	▲1.5%	▲1.8%	▲2.1%
12/10(木)	(フィリピン)10 月輸出(前年比)	▲2.2%	▲0.1%	＋2.9%
	10 月輸入(前年比)	▲19.5%	▲15.6%	▲15.3%
12/11(金)	(マレーシア)10 月鉱工業生産(前年比)	▲0.5%	▲0.5%	＋1.0%

(注) ｺﾝｾﾝｻｽは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。**灰色で囲んでいる指標**は本レポートで解説を行っています。

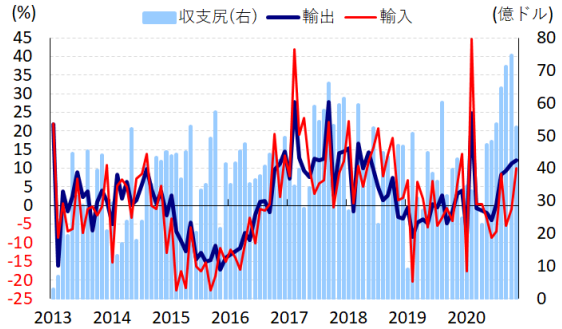
[台湾]～輸出入双方で底入れの動きが続く一方、インフレ率は 10 ヶ月ぶりのプラスとなるも上昇圧力は乏しい～

7 日に発表された 11 月の輸出額は前年同月比＋12.0%となり、前月（同＋11.2%）から伸びが加速した。前月比は前月比▲0.5%と前月（同＋8.7%）から２ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移しており、そのペースは加速するなど底入れの動きが続いている。財別では、鉱物資源関連や化学製品関連で頭打ちする動きがみられるものの、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機器などの機械製品関連、プラスチック製品などの素材及び部材関連の堅調さが押し上げに繋がっている。国・地域別でも、日本向けや中東向け、ＥＵ向けなどに下押し圧力が掛かる一方、最大の輸出相手である中国本土向けを中心とするアジア新興国向けのほか、米国向けの堅調さが輸出全体を押し上げる展開が続いている。一方の輸入額は前年同月比＋10.0%となり、前月（同▲1.0%）から３ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も＋3.1%と前月（同＋14.1%）から２ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向を強めるなど輸出同様に底入れの動きを強めている。財別では、国際商品市況の底入れの動きを反映して原油をはじめとする鉱物資源関連の輸入額が押し上げられているほか、輸出の堅調さを受けて素材及び部材関連のほか、機械製品関連など幅広い分野で輸入が押し上げられている。結果、貿易収支は＋52.69 億ドルと前月（＋74.63 億ドル）から黒字幅が縮小している。

8 日に発表された 11 月の消費者物価は前年同月比＋0.1%となり、前月（同▲0.3%）から 10 ヶ月ぶ

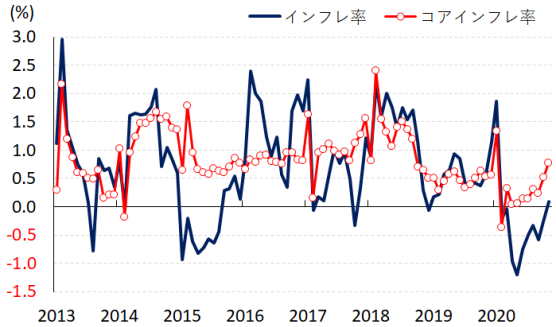
りにマイナスからプラスに転じた。ただし、前月比は▲0.06%と前月（同＋0.34%）から２ヶ月ぶりの下落に転じており、国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格は上昇している一方、生鮮品を中心とする食料品価格は下落傾向を強めるなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比＋0.78%と前月（同＋0.51%）から伸びが加速しているものの、前月比は＋0.01%と前月（同＋0.73%）から上昇ペースは鈍化している。エネルギー価格の上昇に伴い輸送コストに押し上げ圧力が掛かる動きはみられるものの、通貨台湾ドル高の進展を背景に輸入物価に下押し圧力が掛かっており、幅広く財価格は鈍化している上、景気の先行き不透明感を反映してサービス物価も鈍化するなど、全般的に物価上昇圧力が高まりにくい展開が続いている。

図１　TW　貿易動向の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図２　TW　インフレ率の推移

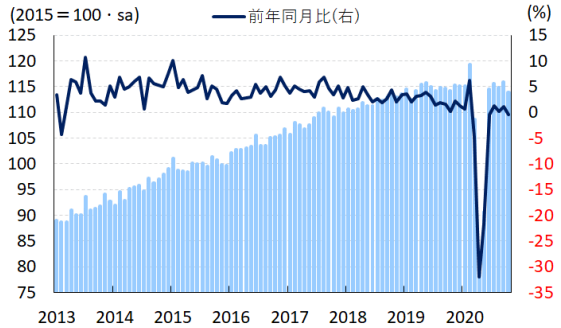


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～生産底入れの流れに一服感が出るも、電子部品や電気機械関連の生産に堅調さが続く～

11 日に発表された 10 月の鉱工業生産は前年同月比▲0.5%となり、前月（同＋1.0%）から４ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。前月比も▲1.75%と前月（同＋0.95%）から２ヶ月ぶりの減少に転じており、底入れの動きが続いた流れに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向が続くなど底堅い展開が続いている。原油関連や天然ガス関連など鉱業部門のみならず、製造業部門でも生産に下押し圧力が掛かっている。製造業部門のなかでは、主力の輸出財である電子部品関連や電気機械関連などに底堅い動きがみられる一方、自動車などの輸送用機器関連の生産が鈍化しているほか、化学製品関連や木製品、食料品など軽工業関連の生産などで幅広く下押し圧力が掛かったことが重石になった。

図３　MY　鉱工業生産の推移

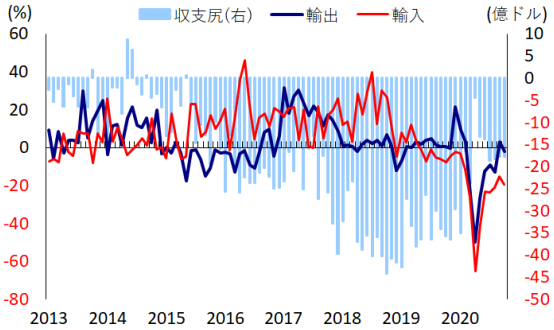


（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[フィリピン]～底入れの動きが出てきた輸出入の動きに一服感も、基調としては共に堅調な動きが続いている～

10 日に発表された 10 月の輸出額は前年同月比▲2.2%となり、前月（同＋2.9%）から２ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は２ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れが進んできた動きに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅く推移している。財別では、主力の輸出財である電子部品関連のほか、農産品、鉱物資源関連など幅広い分野で輸出底入れの動きに一服感が出たことが影響している。国・地域別では、米国向けやＡＳＥＡＮ向けなどに堅調な動きがみられる一方、最大の輸出相手である中国向けのほか、日本向けやＥＵ向けなどの鈍化が足を引っ張っている。一方の輸入額は前年同月比▲19.5%と 18 ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲15.3%）からマイナス幅は拡大している。前月比も６ヶ月ぶりの減少に転じるなど輸出同様に底入れしてきた流れに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向を維持するなど底堅さが続いている。輸出の堅調さを反映して中間財関連の輸入は底堅く推移しているほか、消費財関連の輸入も堅調さを維持する一方、国際商品市況の底入れ一服の動きを反映して原油をはじめとする鉱物資源関連の輸入額に下押し圧力が掛かったことが重石になった。結果、貿易収支は▲17.77 億ドルと前月（▲17.83 億ドル）からわずかに赤字幅が縮小している。

図 4　PH　貿易動向の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

以　上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。